+令和5年度 硬式テニス部

~仲間の1勝はみんなの1勝~







《年間結果報告》

男子

高校選手権 男子団体 7位入賞

個人戦 3年生ベスト16 柏木,西川,松本

新人戦 男子団体 8位入賞

女子

高校総体 女子団体 6位入賞

女子団体 敢闘選手賞 堀本桃子

個人戦 ダブルス ベスト 16 廣・堀本組

高校選手権 女子団体 6位入賞

新人戦 女子団体 5位入賞

【部員】

男子

3年: 7名 2年: 6名 1年: 10名



女子

3年:8名 2年:6名 マネ1名

1年:9名 マネ1名



~活動実績~

○ 部結成



◎高校総体

《 女子 》団体6位

敢闘選手賞 堀本桃子

~大会の様子~















































○ 高校選手権

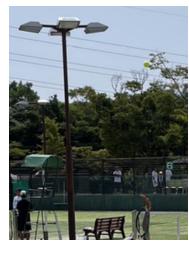
《 女子 》 女子団体 6 位入賞 《 男子 》 男子団体7位入賞

~大会の様子~

















○新人戦

《 女子 》 女子団体5位入賞 《 男子 》 男子団体8位入賞



































[あれこれ]



















【3年生を送る会】







【左業卒】







コロナ禍が続く中、20人を超える新入生が入部してくれ、コートは活気に満ちていた。個性豊かな男子7人、女子8人の3年生。いよいよ、山商らしい団体戦が戦えると春を迎えた。コロナに邪魔され、声を出して仲間の1勝をみんなで支える山商の団体戦をみんなが待ち望んでいた。

山商の団体戦が似合う 3 年生男子たち。さあ、シード権を取り戻すぞと高校総体に燃えていた。2 年生の秋、膝を怪我し、一度はテニスを諦めた川上も懸命のリハビリと仲間を想う優しい人格が、この大会に神様は間に合わせてくれた。役者はそろったという意気込みで団体戦に向かった。久しぶりの応援歌。仲間への声援。団体戦のベンチで鳥肌が立った。やっと、この子たちに仲間を支える喜び、仲間の想いを力に変える充実感を感じさせてあげることができることが本当にうれしかった。同時に、ここ数年、この環境で団体戦を戦わせてあげれなかった無念さも湧き上がってきた。

1年前の東海大会進出を決めた高校総体に憧れ、自分たちもあの時の先輩たちのようにと努力を重ね、いよいよその時を迎えようとしていた。そんな大会1週間前の練習試合。ずっと精神的にも団体戦メンバーとしてもチームを引っ張ってきた廣花簾がアキレス腱を断裂。この団体戦に一番気合の入っていた廣の離脱にチーム全体の落ち込みは激しかった。仲間の怪我をきっかけに、チームがまとまるという経験はこれまでも何度か経験してきたが、あまりにも突然の離脱に動揺を引きずったままの大会初日となった。入院、手術を終え、何が何でも応援に行きたいという廣は怪我後初めて、団体戦初日に四日市のコートでみんなの前に慣れない松葉杖の状態で姿を現してくれた。選手たちに一気にスイッチが入った。同じ思いで、膝の怪我にずっと苦しんできた男子の川上は、声を張り上げ闘志むき出しで強豪に立ち向かっていた。それを泣きながら応援する廣の姿がチームを鼓舞し続けた。男子のシードをかけた津東との一戦も力の差は感じつつも、立ち向かっていくキャプテン西川、エース柏木、ねばり続ける本村と本当に力の限りを尽くしていた。結果は敗戦に終わったがその勢いは女子へと繋がれた。

女子も廣のいない状況で、初戦から苦しい戦いの連続であった。重圧は計り知れない2年生の谷川原、廣の分もとこれまで見たことがない強気な林と山口。ずっと、チームを廣とともに牽引してきた堀本は、この一球を廣のためにあきらめるわけにいかないという覚悟で、相手コートにボールを返し続けた。もちろん、団体メンバーにはなれなかった3年生も自分が出せるすべてのパワーをコートの選手に送り続けた。1年生にとっては初めて見る山商の団体戦。コロナ後、2年生にとっても初めて声を出して応援が許された山商の団体戦。改めてチームスローガンの「仲間の一勝はみんなの一勝」をみんなが体感していた。結果は6位入賞。堀本はこの大会で敢闘選手賞。本当に立派な成績をみんなの力で残すことができた。コロナ禍で失いかけていた山商の団結力は、より強固なものとなり取り戻すことができた。

その後3年生は、進路を考え引退するものもいたが、シードを取り戻すまでは引退するわけにはいかないと、男子の柏木、西川、川上が夏の選手権まで現役続行を決意。女子も、廣が懸命のリハビリをし、夏の団体戦に出たいという決断をしてくれた。それを支えると決意し堀本も現役続行を決意。ほかの3年生も自分たちができることは何でもするいう姿勢で、暑い夏も後輩たちの指導に、球出しに、サポートに力を尽くしてくれた。廣の怪我は全治3か月。夏の高校選手権の団体戦1日目がちょうどその3カ月目であった。決断はしたもののコートに立って試合に出ることは不可能だろうと考えていた。本当に暑い暑い夏だったが、高校総体の勢いをそのままに充実した夏を過ごすことができた。8月下旬、3年生最後の高校選手権が始まった。地道に頑張ってきた松本陸

が3年生大会でベスト16に入るなど、本当に後輩たちに財産となる姿を残し続けてくれた。いよいよ団体戦。 男子はチーム力で見事シード権を取り戻してくれた。そして、3年生男子最後の順位決定戦。対戦相手は永遠のライバル校の桑名西。川上・西川のずっとチームを支えていた二人のダブルスは、まさに信頼関係がなせる絶妙の呼吸で相手を追い詰めるも4-6での敗退。あまりにも二人らしい最後だった。シングルス1は先輩たちの姿を見て、ともに団体戦を戦ってきた1年生エース岡本。先輩たちへの感謝を背負いながら見事な勝利。1-1でエース柏木に託された。この最後の舞台を前に、これまでの長いテニス生活の中で一番のフォアハンドのスランプ。打てばアウト、ネットを繰り返す状況だった。入学当初の柏木は、「自分の納得のいかないテニスで勝っても仕方がない」と負けを受け入れていた。人生最後の現役のテニスは、本当に泥臭く、フォアはスライスで返すだけ、バックハンドも丁寧に相手との長いラリーを選択し、まさに灼熱の中の熱闘であった。35度に迫る暑さの中、2時間に迫る激闘の末、タイブレークでの敗退となった。最高の団体戦テニスを後輩に残してくれた。一本のエースよりも、10球、20球と粘り続けるテニスを技術の高い柏木が残していってくれたことが何よりも山商の財産になった。

女子の団体戦は廣の出場が医者から OK が出た。廣、堀本に加え力をつけてきた 2 年生 3 人で戦った。初戦から苦しい試合の連続であったが 3 年生の精神的な強さにまたもや頼る形の大会となった。廣は大好きな、あこがれの団体戦を後輩とのダブルスで出場。決して万全の状況ではない中、戦う姿勢を後輩たちに残していってくれた。堀本は猛暑の中、長いラリー戦を戦い抜きシード権を守り後輩たちに襷をつないでくれた。本当に気温も、気持ちも 3 年生の熱い、やり切った夏が終わった。

後輩たちの新人戦への歩みがスタートした。女子はベスト4返り咲き、男子はシード権確保を目標に新チームは新人戦団体を迎えた。男子は1回戦、2回戦は危なげなく勝利し迎えた津田学園戦。エース岡本は何とか食らいついたもののほかのダブルス、シングルスとも完敗であった。順位決定戦にまわり、暁戦、四日市南戦とも2勝3敗と悔しい敗戦の連続で8位入賞という結果で新人戦の団体戦を終えた。しかし、新チームは硬式テニスどころかソフトテニスすら経験していないものも多い状況のチーム。そんな中、三重県のレベルの高い北勢のチームに競りあえたことは大きな収穫となった。

女子は打倒川越で挑んだ団体戦。まだ暑さの残る四日市テニスセンターで、絶対的なエースがいない山商としてはすべての選手がキーパーソンとなる団体戦。最後の最後まで川越を苦しめたが、力及ばず2勝3敗で敗れ、準々決勝敗退となり順位決定戦に回った。目標としていた相手との惜敗に切り替えが難しい状況ではあったが、それぞれが今回5位になって、春こそ川越にリベンジを合言葉に5位入賞を果たすことができた。彼女たちのベスト4への執念に頼もしさを感じることができた。男女とも、ベストの結果ではなかったが、課題を残し、新たな目標を設定することができた貴重な新人戦団体戦となった。勢いそのままにその後の個人戦でも、多くの選手が県大会に駒を進めることができ、令和5年度の大会を終えた。

長い秋冬も、進路を決めた 3 年生、卒業生、地域のテニスにかかわって頂いている方々のサポートで、マンネリ化することなく、刺激をもらい部員たちは着実に力をつけていくことができた。本当に感謝である。

バラバラだった女子、個性豊かすぎる男子、そんな 3 年生たちが引退後、みんなで食事に、バーベキューに、スノーボードに・・・と、残りの高校生活を楽しんだ。みんなが本当の仲間になってくれたことが何よりも顧問としては嬉しかった。川上が私につけてくれたあだ名「テニス変態」。改めて、自分でもその通りだなあと思う。テニス変態の喜びは、テニスを通して、山商テニス部を通して一生の仲間を手に入れてくれること。そのためには休み返上で、老体に鞭を打ってでも、ともに信頼できる環境を、充実した経験をさせてあげたいと考えている。私にとっては個性豊かであった君たちとの3年間は、突然の事故、怪我、事件・・・。変態の腕の見せどころ満載でした。思い出深い君たちとの別れは本当につらいです。しかし、3年生が一番わかってくれていると思いますが、後輩たちはもっと私の腕の見せどころ満載の部員たちです。変態に磨きをかけて頑張りますね。また、助けに来てください。そして、いつまでもみんなで集まり、高校時代の話に、近況の話に花を咲かせてください。お疲れさまでした。思い出深い君たちの未来が輝かしいものとなることを祈っています。ありがとうね。

~中学生の皆さんへ~







仲間の1勝はみんなの1勝

個人競技に思われるテニスですが、一人一人がバラバラでは、個人の勝利も団体戦の勝利も勝ち取ることができません。部員みんなに対する思いやり、支えてくださる家族に対する感謝の気持ちをテニスを通じ育ててほしいと思います。

嫌々テニスを練習していても上達しません。テニスコートに行くことが楽しみで、みんなと練習している時間が、 毎日の中で一番充実した時間になるよう顧問・先輩たちは頑張っていきます。

山商テニス部で一緒に青春しましょう!

(設備)

山商のテニスコートはなんと<u>6面</u>もあります。ですから、入部当初からボールを使っての練習に参加できます。 県下でも珍しいハードコートが2面、クレーコートが4面あります。さらには、<u>全コート照明も完備</u>されています。 日照時間が短くなる秋、冬にかけてもテニスコートを使って練習ができます。

(活動内容)

練習時間 平日 15:50~18:30

休日 8:30~12:30

※ 休日には練習試合・大会が入ることが多いです。

※ 週に1度は休息日を設けてあります。